

平成 29 年度 第 1 回 昭島市民図書館協議会
会議録（要旨）

[開催日時] 平成 29 年 8 月 9 日（木） 18：30～19：30

[開催場所] 昭島市民図書館 2 階 閲覧室

[出席者]

- 1 委員：真如会長、原田副会長、新井委員、吉野委員、
大串委員、本多委員、山川委員、大野委員
- 2 事務局：小林教育長、山口生涯学習部長、石川市民図書館長、磯村新図書館担当課長、
井上係長、小澤係長

[欠席者] 美坐委員、矢藤委員

[議事要旨]

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 昭島市教育委員会教育長挨拶
- 4 委員及び職員の紹介
- 5 議題
 - (1) 正副会長の選出
 - (2) (仮称) 教育福祉総合センター整備事業の進捗状況について
 - (3) 平成 28 年度昭島市民図書館事業報告について
 - (4) 平成 29 年度主要事業の進捗状況について
 - (5) その他
- 6 その他

[配布資料]

- 資料 1 (仮称) 教育福祉総合センター整備事業 (概要版)
- 資料 2 平成 28 年度昭島市民図書館事業報告
- 資料 3-1 昭島市民図書館 基本方針・基本計画
- 資料 3-2 第三次昭島市子ども読書活動推進計画
- 資料 3-3 平成 29 年度昭島市民図書館運営方針
- 資料 3-4 平成 29 年度事業の進捗状況について

資料 3-5 平成 29 年度新一年生における貸出券作成結果

資料 3-6 高校生のみなさんへ

資料 3-7 デジタルで聴く明治・大正・昭和の音

[発言要旨]

5 議題

(1) 正副会長の選出

会長に真如委員、副会長に原田委員を選出

(2) (仮称) 教育福祉総合センター整備事業の進捗状況について

事務局 ※資料 1 の説明

図書館の運営については、昨年度の図書館協議会でご意見をいただいた指定管理者制度の導入について、教育委員会として指定管理者制度導入の方向性を示し、(仮称) 教育福祉総合センターにおける新図書館及び新郷土資料室の運営方針(案)に係るパブリックコメントを実施したところである。

結果については後日取りまとめ、市のホームページにて公表させていただきたい。

会長 意見はあるか。

委員 意見なし

会長 次の議題に移る。

(3) 平成 28 年度昭島市民図書館事業報告について

事務局 ※資料 2 の説明

会長 意見はあるか。

委員 33 ページのオンラインデータベースは、利用を始めたばかりだということだが、47 件というのは非常に少ない。もっと利用してもらった方がいい。新聞は古い時代から調べられるということをお知らせすると、利用される方が増えてくると思う。国立国会図書館のデジタル化資料送信サービスが 150 万冊以上閲覧できることも宣伝していただきたい。

オンラインデータベースは、新聞と法律と官報と国会だが、辞書なども検索できるジャパンレッジというものがある。大型の各国語辞典、日本の大型辞典、百科事典も入っており、高等学校などで検索の授業で活用しているところもあるので、将来そういうものも入れた方がいいのではないかと。

小学校、中学校向けにポプラディアのオンライン版と、学研の百科事典のオンライン版があるが、これも将来、生徒だけというよりは、むしろ学校の先生を

含め市民の方にも利用していただけるように、是非導入を検討していただき、利用を進めていただくとよろしいのではないかと。

朝日新聞はかなり古い時代から入っているのでいろいろと使える。契約によるが、読売新聞は明治の創刊号の頃から入っている。読売新聞はある時期あまり売れない新聞だったが、それでもよく探せる。こういうものも皆さんに宣伝し、使っていただくとよいのではないかと。すごくもったいない。

事務局 オンラインデータベース国立国会図書館に関連してだが、国立国会図書館の歴史的音源というものを6月から開始した。歴史的音源の導入にあわせて、オンラインデータベースもお示しさせていただき、一般市民に利用のPRをさせていただいた。また、図書館では先生の研修があり、先生方が来た際や、小学校教育研究会の社会科部会の先生にお願いし、使ってほしいとPRしている。去年の8月から、徐々にではあるが固定の利用者の利用回数が増えている状況である。なお一層PRに力を入れていきたい。

(4) 平成29年度主要事業の進捗状況について

事務局 ※資料3-4の説明

会長 質問はあるか。

委員 9月に学校で自由研究を提出するが、優秀作品を図書館で展示してはどうか。新しい学習指導要領だと、図書館を使っていろいろなことを調べ学習するシーンが写真入りで教科書に載っている。高等学校の教科書の国語科現代文には、公共図書館に行って司書に話を聞こうということが載っている。新しい学習指導要領に基づき、図書館、公共図書館との関係は教育課程の中に入っているもので、自由研究を各学校から出していただき、図書館で展示し、皆さんの関心を高め、図書館を使う動機付けにしようとか、そのようなことを行ったらいいのではないかと。今年は無理かもしれないから来年くらい、あるいは新図書館から。

事務局 学校との連携ということは、今年度図書館の大きな目標の一つに挙げている。図書館から高校生にチラシを配り、利用促進していただきたいとお願いをしている。従来から図書館での見学・体験も行っている。

今年度からは指導課と連携し、子ども読書推進のために各学校で読書計画を作るようになった。読書計画を作るということは、校長が先頭になって図書館運営を進めていく、と理解をしている。小学校の校長先生には、是非、今後も図書館の本を団体貸出してもらいたいことと、図書館員が読み聞かせに行っていることを知らない校長先生もいらっしまったので、使ってくださいということ働きかけている。

先程図書館見学と申し上げたが、見学・体験でおすすめの本を子どもたちに書いてもらい、図書館の1階に展示するという試みを始めた。これに甘んじるこ

となく、学校でいい作品があれば図書館に展示していくなど、なお一層連携を強化して行きたい。

会 長 委員からはいつも前向きな提言をいただき、すごく「なるほど」と思う。自由作品については、おそらく各学校を調べてみれば、やっていないところ、子どもに任せてあるところ、校内全員に課しているところ、まだまだ学校単位でいろいろあると思う。学校を経由するのではなく、図書館からコマース化してもらい自由に参加できるようなものにしていくと、結構賑わうのではないか。素晴らしくいい発想で取り組む子がいるので、図書館の本を使って調べるといったような条件を付けていけば集まるのではないか。

他に意見はあるか。

委 員 図書館事業報告書 21 ページ、利用者の年齢層別登録者数。子どもたち、壮年、高齢者と3つに分けると、壮年が多くて41%、子どもたちが26%でもっと多いと思った。高齢者が少なく、これから高齢者のための対応をやっていく必要があるのではないかと考えていたが、高齢者の方が多くて33%。60代70代がやや多い。これがちょっと意外で、子どもたちに対するアプローチをしないと他のもの全部に関わってくるような気がする。でもこれは数字の詭弁で、パーセンテージで言えばこういうことだが、分母が少ないからそのなかでいくら分けても同じことで、もっと全体の数を上げないとどうしようもない。やはり子どもたちと高齢者へのアプローチが必要ではないか。子どもたちに対しては、学校を通していろいろなアプローチがあると思うが、実態として子どもたちのフィードバックが意外と少ないのかもしれない。数字では上がっているように見えるが、市内全体で26%というのは少ないと思う。他の自治体はこういうものなのかも知れないが、僕の感触では少ない。今どうしたらいいかはノーアイデアだが、このあたりを考える必要があるのかもしれない。「市民図書館」だから市民に対するアプローチをしなくてはならない。今の時季もそうだし自分もそうだが、高齢者に対して「図書館に来るだけでも涼しい」等何でもいいと思う。親しんでもらうところから入って。うちの近所の僕らくらいの年齢の人は誰も行っていない。皆、暑いと言いつつ畑に行っている。「図書館の方がいいのでは」と言っているのだが、関心を持っていないから何か必要だと思う。

事 務 局 新図書館に関して申し上げるが、場の提供ということを大きく考えている。武蔵野プレイスには中学高校生が集まる場があり、そこに大勢いらっしやっている。まずは来ていただくという事が先決ではないかと思っている。先程の説明にもあったが、今の図書館にもあるティーンズコーナーをグレードアップさせ、そこに直結したグループ学習室というものも2つ作り、自由に勉強する等、いわゆるラーニングコモンが形成できれば、というようなことを考えている。今の図書館は手狭であり、2階の閲覧席も20席程度、1階でも30

席程度しかない。新図書館では学習席とは別に 300 席の閲覧席を作り、いろいろな方に来ていただけるような場、いろいろな行事、展示を企画して、まずは来ていただく、そして使っていただいて、それが利用、貸出につながれば、と考えている。また、それに向けてこの場でいろいろな貴重なご意見を頂戴し、それを活かしていけたらと思っている。

委員 資料 1 の 1 ページ目に答えが書いてあった。コンセプトは場。おっしゃるとおり。そこからいろいろなふれ合い、人と人だったり、本と人だったり、が起ころのだろうと言おうと思ったが、もうここに答えが出ていた。

事務局 いろいろな取り組みを重ねているところである。

たとえば、おはなし会の人数は少しずつ増えている。去年は市民図書館が耐震補強工事で使えなかったのを代わりに福島会館で行った。そこでは和室が使えたので、鳴物の「わらべうたライブ」を行ったところ、定員に達した。そのような状況を踏まえ、できる限りのことをしていきたい。

その他、選書の充実や、皆さんが通るカウンターに特設コーナーを設け、昭島の水のアプローチをする等、人を惹きつけるような選書や配架を心がけ、少しずつでも子どもたちに来てもらいたいと考えている。

高齢者への対策事業だが、構わずやればよいというものではなく、昨年人気のあった「秋のひととき、歌と脳トレでリフレッシュ！」を「また今年も」というご要望に答え、今年度も行うことにしたが、既に定員に達している状況である。このようなどころから高齢者の読書離れ、図書館に親しんでいただくことに繋がればよいと考えている。

委員 高齢者は読書をしない。テレビばかり見ている。図書館に来ていただければ、教養も高まるし、いいと思う。

会長 コマーシャルというか、皆さんに「何をしている」というお知らせが浸透していかないといけない。まずはそこから。先程の話のとおり、場の提供があり一度体験すればいいと思う。オンラインの話も、知らないから如何に知らせるかがポイントではないか。いろいろ工夫して進めていただきたい。

6 その他

事務局 今後の予定の説明

以上